

■製品安全データシート (MSDS)

断熱板 高強度グレードHIPLタイプ

平成20年12月15日更新

1. 製造元情報

【会社名】 日光化成株式会社
【住所】 滋賀県湖南市石部町4-2-1
【担当部門】 商品開発センター・商品開発グループ
【電話番号】 0748-77-8558 【FAX番号】 0748-77-0880
【整理番号】 IG-0105

2. 製品名 ロスナボード

3. 危険有害性の要約

【GHS分類】 分類基準に該当しない。
【重要危険有害性】 目、皮膚などに触れたとき刺激を受けることがある。粉塵を長期にわたり大量に吸入したとき、呼吸器への影響を生じる恐れがある。
【特有の危険有害性】 特になし。

4. 組成、成分情報

【単一製品・混合物の区分】 混合物（加熱硬化成形品）
【化学名または一般名】 ガラスクロス基材無機系樹脂積層板
【化学式または構造式】 略

成分、含有量、官報公示整理番号（化審法・安衛法）及びCAS No.

| 成分名 | 含有量 wt% | 官報整理番号 | CAS No. |
|------------|------------|--------|------------|
| 無機系樹脂 の硬化物 | 32 《30~35》 | 該当なし | 該当なし |
| 無機フィラー | 68 《65~70》 | 該当なし | 65997-17-3 |

5. 急患処置

【吸入した場合】 粉塵等を吸い込んだ場合は直ちに清浄な水でよくうがいをし、空気の新鮮な場所に移す。必要があれば医師の診断を受ける。
【皮膚に付着した場合】 石鹼水等で洗い流す。異常が見られる場合は直ちに医師の診断を受ける。
【目に入った場合】 粉塵等が目に入った場合は清浄な水で15分以上洗眼後、必要があれば医師の診断を受ける。
【飲み込んだ場合】 多量に飲み込み、異常が見られる場合は直ちに医師の診断を受ける。

6. 火災時の措置

【特定の消火方法】 火元への燃焼源を断ち、消火剤を使用して消火する。消火作業従事者は適切な保護具を着用する。
【消火剤】 粉末、二酸化炭素、大量の水、泡

7. 漏出時の措置 固形物のため、該当しない。

8. 取扱い及び保管上の注意

【取扱い】 製品エッジでの切り傷等の防止のため、必ず保護手袋を着用する。必要に応じ、眼鏡、マスク等の着用が好ましい。
【保管】 吸湿等の起りにくい場所に梱包し、直射日光を避け平積みで保管する。

9. 暴露防止措置

【許容濃度】 日本産業衛生学会（2005年度版）：該当なし
【設備対策】 切削・切断及び打ち抜き加工等、粉塵の発生のある時は局所排気装置を使用する。
【保護具】 呼吸器の保護具 : 切削・切断、打ち抜き加工時は防塵マスクを着用する。
手の保護具 : 製品を取り扱う際には必ず保護手袋を着用する。
目の保護具 : 切削・切断、打ち抜き加工時は保護眼鏡を着用する。
皮膚及び身体の保護具 : 長袖の作業着など出来るだけ皮膚を露出しないものを着用する。

10. 物理的及び化学的性質

| | |
|------------------|-----------|
| 【外観】 | 平板状固体（白色） |
| 【臭い】 | なし |
| 【pH】 | データなし |
| 【融点・凝固点】 | なし |
| 【沸点、初留点及び沸騰範囲】 | なし |
| 【引火点】 | データなし |
| 【燃焼又は爆発範囲の上限・下限】 | なし |
| 【蒸気圧】 | なし |
| 【蒸気密度】 | なし |
| 【比重】 | 1.90~2.10 |
| 【溶解度】 | 水に不溶 |
| 【n-オクタノール/水分配係数】 | なし |
| 【自然発火温度】 | データなし |
| 【分解温度】 | データなし |

11. 安定性及び反応性

【安定性】 化学的に安定で反応性なし。
【危険有害反応可能性】 知見なし

12. 有害性情報

| | |
|------------------|--------------------------------------|
| 【急性毒性】 | 知見なし |
| 【皮膚腐食性・刺激性】 | 切断及び加工粉についてかゆみ等を生じることがある。 |
| 【目に対する重篤な損傷・刺激性】 | 直接接触時に物理的刺激が生じる場合がある。 |
| 【呼吸器感作性又は皮膚感作性】 | 知見なし |
| 【生殖細胞変異原性】 | 知見なし |
| 【発がん性】 | 知見なし |
| 【生殖毒性】 | 知見なし |
| 【特定標的臓器・全身毒性】 | 知見なし |
| 【単回暴露】 | 知見なし |
| 【特定標的臓器・全身毒性】 | 知見なし |
| 【反復暴露】 | 知見なし |
| 【吸引性呼吸器有害性】 | 粉塵を長期にわたり大量に吸入したとき、呼吸器への影響を生じる恐れがある。 |

13. 環境影響情報

【生態毒性】 知見なし
【残留性・分解性】 環境において長期間分解しない。
【生体蓄積性】 知見なし
【土壤中の移動性】 知見なし

14. 廃棄上の注意

産業廃棄物として取り扱うこと。廃棄する場合は、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」に従って処理する。

15. 輸送上の注意

製品を固定し、落下、横滑り等のないようにする。

16. 適用法令

・ガラス繊維及びロックウールの労働衛生に関する指針（平成5年1月1日労働省労働基準局長基発第1号）
・PRT法及び労働安全衛生法の対象とはなりません。

記載内容は現時点入手できる資料、情報、データにもとづいて作成しており、新しい知見により改訂されることがあります。また注意事項は通常の取扱いを対象としたものなので特殊な取扱いの場合には用途、用法に適した安全対策を実施の上ご利用ください。記載内容は情報提供であって、保証するものではありません。